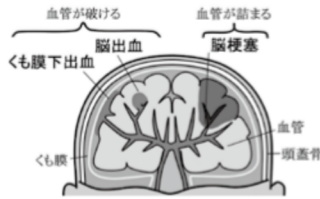




脳卒中を知ろう！

<脳卒中とは>

「脳が突然に中る」という意味に由来した言葉で、脳に血液がいなくなる「脳梗塞」と、血管が破れて生じる「脳出血」・「くも膜下出血」に大別されます。日本では、寝たきりの原因疾患の第1位で、脳卒中の予防と治療が重要な課題となっています。



<症状は>

障害をうけた脳の部位や程度によりさまざまですが、突然の頭痛や意識障害、体の片側の麻痺やしびれ、眼の見にくさ、呂律が回らない、言いたいことが言えないなどがよくみられます。こんな時は、できるだけ早く救急車を呼び近隣病院を受診してください。

<疾患別の主な急性期治療>

脳梗塞▶ tPAという薬で、血管に詰まった血の塊を溶かす治療が有効ですが、発症して4.5時間以内しか使えないため、迅速な対応が必要です。カテーテルを使用して血の塊を取り除く治療も行われています。

脳出血▶ 開頭術(頭蓋骨を外して脳を顕微鏡でみる)や内視鏡を使用して血の塊をとる手術を行う場合もあります。

くも膜下出血▶ ほとんどの場合は、脳の動脈のコブが破れて出血するため、開頭しクリップでコブをつまんで止血する手術や、カテーテルを使用してコイルをコブの中につめる血管内治療も発展しています。

<脳卒中を防いで健やかに生きるには>

重症例では、救命が困難なこともあり、日常生活上の注意や予防が極めて重要です。心配な方は、積極的な医療機関の受診をお勧めします。

日常生活上の注意や予防のポイント

- ・家庭での血圧 135/85 以上は高血圧です
- ・適正なカロリーとバランス、脂肪と塩分を控えた食事
- ・禁煙と節酒
- ・1日30分以上の歩行
- ・体重はBMI 25 以下に

市立甲府病院脳神経外科 川瀧智之かわたきともゆきドクター



- ・平成4年山梨医科大学医学部卒
- ・日本脳神経外科学会専門医・指導医・がん治療認定医
- ・山梨大学脳神経外科准教授・病院教授を経て、令和4年から当院勤務
- ・現在当院、脳神経外科部長

問市立甲府病院…☎055(244)1111

お医者さんにかかるときは

問健康保険課…☎055(237)5371

医療機関を上手に受診しましょう

同じ病気で安易に医療機関を受診すると医療費の増加に加え、検査や薬の重複で体への影響が心配されます。治療法に不安がある場合は医師に相談しましょう。

かかりつけ医を持ちましょう

体調に気になることがあった場合、自分の病歴や健康状態を把握している「かかりつけ医」がいると安心です。



お薬手帳を活用しましょう

薬は用量・用法を守って服用しなければ効果が得られないばかりか、副作用を生じることがあります。手元に飲み残した薬やすでに処方されている薬がある場合は、医師や薬剤師に相談しましょう。

「お薬手帳」を1冊にすると処方薬の確認ができます。受診の際は医師に「お薬手帳」を提示しましょう。



家計にもやさしいジェネリック医薬品を活用してみませんか？

ジェネリック医薬品は、厚生労働省が安全性や効き目が新薬(先発医薬品)と同等と認めている薬です。開発コストが抑えられるため低価格となり、皆さんの薬代負担軽減や安定した医療保険制度の維持にもつながります。

※変更できない薬や取り扱いのない薬もあるので、ご利用の際は医師や薬剤師に相談しましょう。なお、現在一部のジェネリック医薬品の供給に不安定な状況が見受けられ、薬局などで購入できない場合があります